

令和2年度 第1回伊東市行政改革懇談会（要点記録）

- 1 日時 令和2年7月15日（水） 午後1時30分～2時30分
- 2 場所 市役所 7階 特別会議室
- 3 出席者 委員：上村昌延会長、五十嵐正信委員、小川健一郎委員、佐藤健治委員、
鈴木洋子委員、関川永子委員、森知子委員、山田豊和委員
市：企画部長、理事、企画課長
事務局：企画課課長補佐、企画課主査

4 内容

(1) 開会

（企画課長）定刻になりましたので、ただ今から、令和2年度第1回伊東市行政改革懇談会を開会いたします。本日は御多忙の中、御出席いただき誠にありがとうございます。本日の会議を招集申し上げたところ、やむを得ず欠席する旨の届出が、勝又委員からございましたので、御報告いたします。

(2) 挨拶

（理事）本日はお忙しい中、また天候が優れない中、伊東市行政改革懇談会に御出席いただき、誠にありがとうございます。本日は本市が一年間、伊東市公共経営改革大綱実施概要に基づき取り組んできました内容等の取組状況について、皆様に御報告いたします。御報告申し上げた内容につきまして、皆様から忌憚のない御意見をいただきたく存じますので、本日は何卒よろしく願いいたします。

(3) 委員の自己紹介及び市出席者の紹介

（席順で各委員が自己紹介）

（順次、当局出席者が自己紹介）

(4) 議題

ア 伊東市公共経営改革大綱実施概要（令和元年度実績・令和2年度計画）について

（会長）議題の1、伊東市公共経営改革大綱実施概要令和元年度実績・令和2年度計画の取組状況について、当局から説明をお願いします。

（事務局）それでは、説明に入ります前に、この度の新型コロナウイルス感染症予防対策のため新生活様式の実践が求められております。

また、首都圏を中心に新規感染者が増加していることや、本市においても新たな感染者が出ております状況から、出来る限り説明は端的に行い、会議時間の短縮を図るよう努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

事前に郵送で配付してある資料の確認をいたします。次第、ホチキス止めしてあります実施概要、こちらは令和元年度実績と令和2年度計画が記載してあります、そして、今後のスケジュールです。それでは、議題(1)「伊東市公共経営改革大綱実施概要（令和元年度実績・令和2年度計画）」について説明に移りたいと思います。

まず、伊東市公共経営改革大綱実施概要とは、前回説明いたしました本市の行政改革を推進すべく策定しております伊東市行財政改革大綱を実際に運用していくため、具体の指標等を記載したものになります。本日は、伊東市公共経営改革大綱実施概要に掲げております指標の令和元年度実績と令和2年度計画について説明し、実施している取組等について、質疑や意見を賜りたいと存じます。なお、本実施概要は令和2年3月末時点の資料となり、成果指標の中には市議会定例会にて決算が認定されてからではないと、確定しない指標もございます。そのため、確定した正式な公表は9月定例会に決算認定を上程しますので、それ以降に行ってまいります。

今回、懇談会委員の皆様には、確定版の公表の前に実績の報告をさせていただきます。

それでは、冊子「伊東市公共経営改革大綱実施概要（令和元年度実績・令和2年度計画）」の表紙をめくっていただき、目次を御覧ください。

まず、この大綱が目指す姿といたしましては、本市の最上位計画であります、第4次伊東市総合計画の「構想の推進」に掲げられた、項目でいうところの1番濃い網掛け部分、1「市民の信頼に応える行政運営」、2「健全な財政運営」、3「市民参画によるまちづくり」の3つの施策の実現を基本方針としており、これら3つの施策を推進するために施策ごと方策を立て、方策に基づいて実施する事項を設定しております。

指標の担当課は、実施事項に則り、年度ごとの実施計画を立て、事業を実施し、実績をこの実施概要にまとめていきます。繰り返しになりますが、委員の皆様には、この懇談会の中で、その実績報告、進捗について報告をさせていただきます。

なお、実績ですが、基本的には指標を数値目標としており、評価については、出来る限り分かりやすいように、指標の目標値を達成したか、未達成かの2段階評価としております。

また、前回の懇談会にて、指標の一覧表があると確認しやすくなるとの意見をいただきましたので、目次の次ページに一覧表を作成いたしました。網掛け部分が令和元年度の実績を記載した箇所になります。

では、実施概要の中身について説明してまいります、主な取組をピックアップして説明させていただきます。

資料をめくっていただきまして「実施概要」の1ページを御覧ください。

1ページ目に記載しておりますのは、先ほど申し上げました3つの項目のうちの1つ「1 市民の信頼に応える行政運営」の実績となります。指標として市の取組に対する満足度を設定しております、本指標は市民満足度調査から引用をしております。1点、修正をお願いします。令和元年度の実績の値ですが、58.6%ではなく、56.8%になります。失礼いたしました。令和元年度目標63.5%に対し実績は56.8%で、目標を達成できませんでした。

事務を可視化し、不適正な事務処理等の発生を未然に防ぐことによって、信頼される市政の実現を図るため、各課における業務の手順書作成の取組を始めたところであり、今後市HPへの掲載についても準備を進めていくとともに、満足度の低い項目につきましては、改善を図るための取組を着実に進めてまいります。

次に、この項目①「市民の信頼に応える行政運営」の実現を目指し、方策を2つ設定しております。そのうち1つ目、伊東市（I・T・O）システムの更なる進展については、次の2ページでございます。

指標の1つ目「事務事業の整理合理化による廃止、縮小等見直し事業数」については、令和元年度の実績が、約1,000事業中、廃止・縮小等の見直し事業数の目標値を110事業とし、実績は93事業となりました。

また指標の2つ目「各会計予算における新規・重点・拡大事業数」については、目標値250事業に対し、248事業となりました。

1つ目の指標であります廃止・縮小等の見直し事業数は、昨年度から増加したものの、目標を達成できませんでした、また2つ目の指標につきましても、わずかに目標を達成できませんでした。PDCAマネジメントサイクルによる見直し作業において、新規事業等が増えていることから、事業のスクラップを推進できるように検討いたします。

では実際に、方策①「伊東市（I・T・O）システムの更なる進展」にもとづき実施した事業の実績についてみてまいります。3ページから6ページに記載しております。代表的な取組として6ページをお願いします。

職員における改革の意識向上として、私の一改革運動を実施しております。

私の一改革運動とは、職員の自由な発想による行政等に関する提案を奨励し、実施することにより、自身の業務の細部に目配りをし、業務改善意識や改革の高揚を一層促進することで、行政効果の向上、事務の能率化及び職員の資質向上を図るために実施しております。指標は、提案件数とし、目標は80件としております。平成30年度で12回目となり、マンネリ化等から提案件数の伸び悩みが課題でしたが、提案しやすい環境作り、インセンティブの拡充や提案のフォローアップなど工夫をこらして実施することで、例年の提案件数の増加につながったと考えています。

なお、直近に実現した提案は、多目的トイレに幼児用の補助便座の設置、あまんちゅを活用したご当地婚姻届けの配付や市公式LINEアカウントを開設し情報発信の強化等の取組を実施いたしました。

これまで提案の募集期間を設け実施しておりましたが、平成30年度期間は制度設計を見直す期間とし、今年度からいつでも提案を提出・確認できる体制を整えました。さらなる提案件数の増加を行うことで、行政効果の向上等を図ってまいります。

次に7ページにまいります。

ここには、項目1の2つ目の方策である、「人事・給与制度の体系的整理、民間への業務移管の推進及び研修制度の充実」の実績を記載してあります。

指標は全部で3つございまして、1つ目の指標の職員定数については、目標578人に対し599人となり目標未達成、2つ目の指標、指導的地位に占める女性の割合については、目標29%に対し、32.0%となり目標を達成、3つ目の指標、市民に対する市職員の適切な対応については、目標65.0%に対し56.0%で目標未達成となりました。

目標を達成できませんでした職員定数につきましては、今後も民間への業務移管の推進等を図りつつ、安定的な行政運営を図る上で必要な人員の確保に努めてまいります。また、市民に対する市職員の適切な対応については、若い職員を対象とした接遇向上研修を行っておりますが達成には至りませんでした。今後も目標を達成できるよう、職員一人一人の意識を高める啓発活動に努めてまいります。

では、この2つ目の方策にもとづいて実施する取組を、9ページから18ページに記載してあります。

代表的な取組として9ページをお願いします。

職員育成に重点をおいた人事評価制度の導入として、平成29年度から、全職員を対象に人事評価制度を導入いたしましたので、実績については、目標を達成いたしました。

この人事評価制度に対するアンケートの意見には、「自己評価をすることで自らを振り返ることができる」や「管理職からの意見として普段聞けない部下の様々な思いを聞くことができ良い機会になった」など、良い声もある中、「職種や担当によって目標設定が難しい」また「管理職からの意見として職員の人事評価制度の理解が不足している」との声もあがりましました。

このような意見を踏まえ、導入して終わりではなく人事評価シート等の改善を行い、制度の定着を図ってまいります。

続きまして、17ページをお願いいたします。

人材の育成を目指した能力開発機会の充実として、各種研修を実施し、指標としては、職員研修受講延べ人数としております。目標値510人に対し実績値は466人となり目標未達成となりました。

集合研修について、昨年度は、台風被害への対応等もあり、可能な限り実施日の変更を行うなど受講できるよう柔軟な対応を行いましたが、目標は達成できませんでした。なお、研修アンケートにて講師や内容について高い評価を受けておりますので、今後も受講人数の増加に努めると同時に満足度、そして効果の高い研修が実施できるよう努めてまいります。

また記載してございませんが、研修内容につきましては、女性職員のキャリアデザイン研修、メンタルヘルス研修、熱海市と合同で行っております、文章力養成講座、話し方講座など各種研修等を実施し、市民に信頼される職員の人材育成を目指し取り組んでおりますが、先ほど説明したとおり、市職員の対応に対する市民の皆様の満足度は、目標に対しまだまだ低いため、より一層力を入れていかなければいけないと考えております。

以上、項目①に関する部分を説明いたしました。3ページから6ページ、9ページから18ページの取組を行った中で、項目①の成果指標である、市の取組に対する満足度の目標は達成できませんでしたので、引き続き、職員の意識の向上に努め、市民の満足度を高めることができるよう努めてまいります。

続いて、項目②について説明してまいります。19ページを御覧ください。項目2は「健全な財政運営」でございます。成果指標として2つ、全ての会計の地方債残高（臨時財政対策債を除く）、市の財政の健全な運営（満足度）としております。

全ての会計の地方債残高については、定例会にて決算が認定されてからでないと確定しない指標でございますので、空欄とさせていただきます。2つ目の指標、市の財政の健全な運営（満足度）につきましては、目標52.5%に対し、実績は40.4%となり、前年度から5.2ポイント増加いたしました。目標は未達成となりました。今後も、無駄を省き、簡素で効率的な財政運営に取り組んでまいります。

次に、この項目②「健全な財政運営」の実現をめざし、方策を2つ設定しておりますが、そのうち1つ目の、持続可能な財政基盤の強化については、次の20ページでございます。

指標は記載の2つで、経常収支比率・市税の収納率となりますが、冒頭説明したとお

り、繰り返しになりますが、決算が認定されてからではないと確定しない指標でございますので、空欄とさせていただきます。

では実際に、方策②「持続可能な財政基盤の強化」に基づき実施した事業の実績についてみてまいります。

22ページをお願いいたします。

自主財源の確保といたしまして、個人住民税特別徴収義務者事業所の指定の推進を図り、指標を「給与所得者における特別徴収納税者の割合」としております。目標83.0%に対し、実績は82.6%で昨年度から0.3ポイント増加しましたが目標は未達成となりました。

引き続き静岡県や近隣市町との連携を図り、事業所等へ年末調整説明会等での啓発を通じ、特別徴収納税者の割合を増やしていくよう努めてまいります。

次に28ページにまいります。

ここには、項目2の2つ目の方策である「公共施設等総合管理計画の推進」の指標を記載してあります。指標は「公共施設除却件数」としており、目標4件に対し、実績は4件、目標を達成しております。

昨年度は老朽化した市営住宅の除却を実施しました。

では、この2つ目の方策にもとづいて実施する取組を、29ページから41ページに記載してあります。

代表的な取組として31ページをお願いします。

社会基盤、施設の全体的視野からの効果的・計画的な修繕・更新・再編の推進、長寿命化の取組強化として、伊東市公共施設等総合管理計画に沿った施設類型ごとの実施計画を推進しました。

指標は、当該計画の達成度の割合とし、実績は100%となり、目標を達成しております。今年度も当該計画に沿って実施計画の取組を推進してまいります。

なお、施設ごとの詳細な実績は32ページから36ページ、令和2年度の計画は37ページから41ページまでとなっております。

主な内容として、施設類型は文化・社会教育施設を例に説明いたします。

32ページです。今年度の実績として、生涯学習課所管の図書館につきましては「建設に向けた検討会を設置し、建設候補地の選定等を行う」を目標とし、新図書館の建設地を決定いたしました。令和2年度の計画といたしまして、37ページをお願いします。図書館・文化ホール建設に向けた検討会において、文化ホールの建設地決定に向けた議論を進めてまいります。

以上、項目②に関する部分を説明いたしました。繰り返しになりますが、決算が認定されてからではないと確定しない指標が多いため、すべての指標の説明ができませんことを御理解いただきと思います。

続いて、項目③について説明してまいります。42ページを御覧ください。項目3は「市民参画によるまちづくり」でございます。成果指標として2つ、市民活動などの地域活動の推進（満足度）、市民の声を伺う機会の充実（満足度）としております。

市民活動などの地域活動の推進（満足度）については、目標63.5%に対し、実績は59.0%、市民の声を伺う機会の充実（満足度）については、目標47.4%に対し、

実績は43.0%で、共に目標を達成できませんでした。

前年度より微増減があったものの、ほぼ同程度の満足度となりました。市長への手紙等の広聴事業について、広く周知するとともに、タウンミーティングでは、地域と相談しながら、参加し易い日時の設定や発言しやすい環境を整えてまいります。

次に、この項目③「市民参画によるまちづくり」の実現をめざし、方策を2つ設定しております。

そのうち1つ目「市民の知恵、民間力を活かすシステムづくり」についての方策の指標は市民提案による事業の事業化数(累計)になります。昨年度は、目標7事業のうち、実績は7事業となり目標を達成いたしました。内容は、平成30年度に実施した第7回いとう創造大賞における最優秀提案「もっとふれ愛結婚促進事業」を事業化しました。今年度は、第8回いとう創造大賞にて最優秀賞を受賞したドキドキわくわく冒険隊の提案「伊東市プレイパーク事業」を補助事業化し、実施しております。

方策①「市民の知恵、民間力を活かすシステムづくり」に基づき実施した事業の実績についてみてまいります。

44ページ、地域の自主的なまちづくり活動への支援ということで、指標をまちづくり事業実施団体登録件数としております。目標値は、52団体、実績は83団体で目標を達成しております。

昨年度から引き続き、魅力あるまちづくり申請補助金の申請手引きを作成し、自治会や分譲地等へ直接送付することで制度の周知を図り、申請にあたっての負担軽減に努めております。今年度においても、制度の周知を図るとともに、市民団体等のイベント情報についてプレスリリース等の支援を実施してまいります。

続きまして、45・46ページをお願いいたします。

指標は「市民活動に関する研修会の参加人数」で、目標20人に対し、実績は34人で目標を達成しました。研修会として市民活動団体・NPO法人等向け実務講座「NPOのクラウドファンディング～基礎知識と活かし方～」を開催、市民活動・市民活動団体に関する相談会を10回開催いたしました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、実施方法等を検討しながら、目標達成に向け進めてまいります。

続きまして、49ページをお願いします。項目3の2つ目の方策である「市民との情報共有化の推進」です。

指標は、記載のとおり市からの情報提供(満足度)で、目標70%に対し、実績は54.6%となり、未達成となりました。

市の公式LINEにて懸賞キャンペーンを行い、登録者数を増加させ行政情報の受皿を広げるように図り、台風15号・19号の際には、市の公式SNSを活用し、災害情報、避難指示や交通情報などタイムリーな情報発信に努めましたが、依然として目標とは大きな乖離がありますので、市民に必要な情報を精査し、的確な情報発信に努めてまいります。

方策②「市民との情報共有化の推進」に基づき実施した事業の実績についてみてまいります。

52ページ、広聴事業の充実として指標を、モニター通信、電子メール、意見箱等による意見件数としており、目標220件に対し実績は380件で、目標を達成いたしました。

いただいた意見につきましては、担当課に提供し、必要に応じて検討・回答を行うとともに、施策の参考としております。また、指標の件数には含みませんが、市長への手紙の用紙を広報いとうへ掲載するとともに、タウンミーティング会場でも配布することにより、年間を通じて意見を提出できる環境を整えております。

以上、項目③に関する部分を説明いたしました。

43ページから48ページ、49ページから53ページの取組を行った中で、項目③の成果指標を、先ほど説明したとおり、達成できませんでした。

今まで以上に地域活動の推進や広聴事業を充実させ、市民の満足度を高められるよう努めてまいります。

駆け足となりましたが、以上で説明を終わらせていただきます。

イ 意見交換

(会長) ただいまの説明について、御意見・御質問がありましたらお願いいたします。

(A委員) 例えば、49ページの目標の設定についてですが、70%の目標を設定しておりますが、令和元年度までの実績は50%台です。これまでの評価は全て「×」です。これは目標設定が高いのか、対策が出来ていなくて達成出来ていないのか、どちらなのでしょう。

(企画課長) 御指摘の指標は、本大綱を策定する際に当初適当な数値が分からず70%という目標を設定したと思われまます。実際に蓋を開けてみたら、このような実績で推移しておりますので、満足度が上がらない部分については、しっかりと分析してなぜ上がらないのかということは考えていかなければいけないと考えています。今後は適切な目標となるように設定していきたいと考えております。

(B委員) 今の質問に関連してですが、私自身も一市民として、SNSを活用して市が情報を発信しているのを見ていると、FacebookのBot(ボット)という自動的に投稿するシステムがあるのですが、何のためにこの情報を発信しているのかと思うことが多いです。

例えば、「ただいま、12時です」と時刻のみを報告していますので、「今日は気温が高いので飲水に心がけて熱中症を予防しましょう」とか発信するパターンやバリエーションに変化を付けた方が良いと思います。大変申し訳ないのですが、その投稿をシェアしてなんのためにこれを投稿しているのかと仲間内で問題視したことがあります。

(企画部長) 伊東市が配信しているものですか。

(B委員) 伊東市の市章のマークで投稿しているもので、伊東市が自動で配信しているはずで

す。

(企画部長) 何というシステムですか。

(B委員) Botというシステムでして、今年度は見かけないのですが、昨年度は確実に投稿していました。「このような情報を市は発信しているんだ、ありがたいよね」と腑に落ちるような情報がSNS等で発信しているのであれば「これ便利だよ」と言って、皆でシェアして、どんどん登録していくようになると思うのですが、評価に繋がっていないということは、やはり発信する情報の内容が市民ニーズにマッチしていないと思いますので、例えば市政モニターの方々に「こんな情報を発信しているのは皆さん御存知ですか」といように、ぜひ登録して内容を評価してくださいとフィードバックを求めていく

ことが、この指標の評価に繋がっていくのではないかと思います。

(企画部長) 市として、本指標の満足度は、100%を目指すというのが当然だと考えております。その中で、A委員から御指摘ありました70%も達成していないではないかということだと思いますが、現時点でいうとB委員からも御指摘いただきましたとおり、ニーズにマッチした情報をすべて出せているかという、出せていないのが現状だと思います。それにつきましては、新型コロナウイルスの関係や前回の懇談会で御意見いただきました災害時の伝達の在り方、危機対策課にて検討を重ねているのですが、どのような形でリアルタイムに発信できるのか、順次改善しておりますので、また何かありましたら御意見いただきたいと思っております。

また、FacebookのBotについては、私もFacebookを登録していますが、見たことがないです。

(B委員) 私達は、お昼の度に見ていました。皆でこれは予算がいくらで何をやっているのだろうと考えていました。

(企画部長) 確認をさせていただきます。

(B委員) 過去の投稿をシェアしていますので、事務局にメールを送らせていただきます。

(企画部長) この機能を知りませんでした。

(B委員) もしかしたら私が勘違いしているのかもしれないのですが、自動投稿は行政でないという手が出しにくいと思っております。

(企画部長) 内容は、「ただいま12時です」とか、そのような内容ですか。

(B委員) そうです。他には「今日は月曜日です。皆さん元気に行きましょう」というような内容です。

(企画部長) ありがとうございます。

※ 上記のBotシステムは、市の公式Facebookアカウントからの発信ではありませんでした。

(B委員) もう一点よろしいでしょうか。新型コロナウイルスの情報発信については、正確な情報が市からダイレクトに届き、時間になれば確認できるため、大変頼りにしており、ありがたく思っています。

伊東市で最初の陽性者が出た時に、秘書課と危機対策課の2パターンの情報発信がありました。秘書課は、どなたが文章を考えたのかはわかりませんが、とても良い内容で、市民を励まし、誤った情報に惑わされずに、皆さんで守るべきものを守れば大丈夫ですよ、というような安心を与える内容でした。危機対策課は、杓子定規というか、硬い文章でした。誰が原稿を書くのかということで、市民の心情に届くかどうかということがありますので、情報発信した内容を評価して、この文章良いねという方がいれば、広報の担当に付け、良い言葉で行政の思いを発信していけば、市民の評価が上がっていくことになると思っておりますので、検討よろしく申し上げます。

(会長) 市役所にも、心が通った方がいたということですね。

(会長) 現在、コロナ渦で取り巻く環境が変化してきていると思っております。本大綱を策定した時と、現在ではかなり異なっていると思っておりますので、出来るものと出来ないものがあると思っておりますが、目標数値の変更はお考えでしょうか。

(理事) 結論から言うと、変更は考えておりません。

策定当時、ありがたい姿を思い描いて目標を設定し、その目標に向かって実施しており

ますので、そのような意味で目標は目標として残したいと考えているのですが、御意見いただいたとおりの時代も変化し、そぐわないものも出てきています。それはその通り実施し、目標に対しては達成出来なかったけど、実際には寄与はしているという内部的な評価はしていきたいと考えております。

(会長) 職員の削減ですが、本大綱の視点から言うと重要なことであると思いますが、それに伴ったサービスが附随していれば、無理に削減する必要もないのではないかと考えます。その人数で良いサービスが提供出来れば、市民は満足するのではないかと考えます。

もちろん、大綱の中身は理解いたしますが、削減を押し出すのは、いかがなものかと考えます。

(理事) ありがとうございます。先ほども申し上げたとおり、策定した当時の状況があって、目標を設定しております。本大綱では、結果を分かり易くするために○、×で評価しており、極端な評価として見えるところはありますが、実際は御意見いただいたとおり、災害が多発していたり等、マンパワーも必要になってきておりますので、削減しなければいけないのかと言えば、そうではないと思います。今後、新しい指標を設定する際には、現状を踏まえ検討してまいりたいと思います。

(企画部長) 職員数の関係として、例えば保育士ですが、保育の需要が高まっておりまして、昨年度は6人を採用しました。過去には、多く採用した年もありますが、近年ではとても多い採用人数になりまして、待機児童数の減少に寄与しているものと考えております。

必要な部分には、会長の仰ったとおり削減するだけでなく、採用していくというのが新しい姿勢になっておりますので、市民の皆様の信頼に応えられる職員を採用していきたいと考えております。

(B委員) 職員の削減や委託事業についてですが、例えば、市民課を委託化する取組が進められていると思いますが、総務省が推進してどこの市町がどのくらい進んでいるという、全体の一覧表を公表して競わせているように見受けられます。都市部と地方を比較すると、大きな企業が少ない地方ですと、市役所に勤務することで安定的に働けるということもあり、就職口としての意味合いもあると思います。災害時についても、例えば津波の被害が想定されるということで、委託業者になった際に、公務員ではないということで、責任を担わなくてよいでしょという責任感の違いが出てくると思います。どんどん外注して小さな行政を目指そうとしているのが、有事の際に市民を助けてくれる職員がいなかったということになってしまったら、トータルで見ると市民の福祉の向上というのには大きな損失に繋がると思いますので、上からの指示や他と競うというのではなくて、全体のバランスを考え、伊東市のより良い姿を想定し、職員の削減のラインを決めていく必要があるのではないかと考えています。

(理事) まず、総務省の指導や他市との比較ですとか、そういうところを見ながら委託を進めているということはありませんので、そこだけは御理解いただければと思います。

やはり、行政改革といったときに、闇雲に民間委託を推進しようということではなくて、最適な実施主体が何であるかということを考え、民間でもできる時代だよということであれば民間の活力を活用することも考えながら、委託に出せるものは出すとか、直営で行うものは直営でやるという最適な方法を考えながら進めていると認識しています。

民間に何でも出せば良いというわけではなくて、どういうことが民間でも出来るかということを考える上では、御意見を踏まえ考えていきます。

(B委員) 事業の内容についてですが、市民との協働や市民のアイデアを取り込んで事業化していくというような補助金事業ですが、議会を傍聴していても経年でやっていきますという事業が市民の声や地域の商店の方々からあまり評価をされていないというのが見受けられます。例えば、市で予算を投下したのであれば、この事業に関する実行委員会などに1年又は2年経過したら、市民との協働ワークショップをして、その事業に対してもっと良いアイデアが取り込めるかどうか、動き出したら誰も口出しできないという補助金事業にするのではなくて、その後も市民が「もっとこうだったら良いのに」とか、「コンセプトは良いのに、もうちょっとこうであれば良いのに」というような声を吸い上げて、みんなで事業を応援していくということができたら、市民の声を取り入れた行政運営という評価、満足度が上がると思いますので検討をお願いします。

(企画部長) 御意見ありがとうございます。常々そのような御意見をいただいております。具体的には、「HIKARI TO YUKATA」事業でしょうか。

(B委員) その事業もそうですが、ブーゲンビリアも委託して多額の費用を掛けたと思いますが、結局手入れや、置いている場所を少し日の向きに変えるだけでも植物なので生きやすくなると思います。設置して、たまに見に来る人よりかは、地域の方に協力してもらい、皆さんのお金で行っている事業だから協力いただけませんかということで「やだよ」という人もいますし、「いいよ」という人もいますので、市民を巻き込みながら、事業を行うと評価が高くなると思います。

(企画部長) 御指摘の通りだと思います。個々にすべて説明すると長くなってしまいますので、ブーゲンビリアに限って言いますと、当時実行委員会を作ってお願ひしていたのですが、実行委員会の中心の方に不幸があったり、特別な接ぎ木をしたブーゲンビリアだったのですが、結果的に海風に弱かったということがありまして、反省点を踏まえ、「HIKARI TO YUKATA」につきましても、市民の実行委員会が中心となって実施していただきまして、今まで市のイベントに携わっていなかった方々にも参加してもらい、御意見をいただいておりますので、委員の御意見を参考にし、市民の意見をさらに幅広く伺って事業を進めていきたいと思ひます。

(B委員) 大変もったいないなと思う事業が他にもたくさんあります。

(A委員) 9ページについて人事評価制度をやっているようですが、人事評価の成果はあるのでしょうか。

(企画部長) 人事評価を実施するようにとの総務省の指示もあり実施しておりますが、実際の運用方法は上司との面談を中心に行っておりまして、期首に目標の設定の面談をし、期末に目標に対してどこまで達成できたかという面談を行っております。公務員として、どういう形で評価をして、差をつけていくかですが、民間は給与やボーナスに差がつかますが、公務員ですと公共の福祉を考えると馴染まない部分もありますので、職員組合とも協議を行った上で、毎年改善をしております。今年度は、新型コロナウイルスの関係で長い時間の面談は出来ておりませんが、部長職は課長職と、課長職は課長補佐職、係長職などと面談をして全職員が面談を行う形で、今伊東市の向っている方向や姿勢を職員に示して理解してもらい、職員一人一人が目標に向かってどのようなことが出来るのかなど考えております。当初は、うまく回らなかったのですが、5年目となり、やっとうまく回り出し、さらに改善を加えながら運用をしていきたいと考えております。

(A委員) 民間ですと、当然給与やボーナスに査定が入りますが、市はまだ対象ではないと

いうことですか。

(企画部長) 給与等への反映はまだ行っておりません。

(A委員) 目標が未達だったとしても、それはそれではないということですか。

(企画部長) 給与への反映は行っていませんが、将来的には必要性はあるかなと考えております。なお、昇任の評価については、関係してくると考えています。

(会長) 他に御意見ございませんか。

ないようでしたら事務局から何かありますか。

ウ 今後のスケジュールについて

(事務局) 今後のスケジュールについて御説明いたします。

お手元に配付してございます、今後のスケジュールを御覧ください。

本日、伊東市公共経営改革大綱実施概要における現在の本市の取組につきまして御説明をさせていただきました。

現状を踏まえ、次回の8月の懇談会にて、委員の皆様と今後の本市の行政改革を推進する上でどのような取組を行うべきか等、意見交換を行いたいと考えます。

意見交換を行いたい内容につきましては、会議の効率化の観点から事前に事務局よりアンケートをお送りいたしますので、その回答に基づき実施をいたします。

その後、意見交換の内容を事務局にて取りまとめ、提言(案)を作成し、皆様に事前に送付した上で、第3回の懇談会にて提言(案)の内容につきまして最終調整を行った後、行政改革懇談会設置要綱に基づき、10月以降に市長へ提言を行っていただきたいと存じます。

最後になりますが、8月の懇談会の日程につきましては、日程調整報告書を取りまとめの上、御連絡いたしますので、御多用の折大変恐縮ですが、御出席いただきますようお願いいたします。

(B委員) 本会議の日程が決まったのが遅く、前回の会議で市民への会議の周知をどうするのですかという質問をしましたが、今回はどのような周知を行いましたか。

(会長) 今回は、傍聴人の予定もあったようですが、都合が悪く来れなくなったということです。

(事務局) 広報いとうで1年間の予定を掲載しており、具体的な日程が決まりましたら、ホームページで掲載をしております。

(会長) それでは、会議を終了させていただきます。お疲れ様でした。

以 上